

して、「Happinessな学校」作りのために三本の矢（戦略）を設定した。一本目の矢が教師の意識改革、二本目の矢が児童会及び五、六年生の活性化、三本目の矢が保護者や地域への新たな学校作りへの広報と周知活動とした。職員には、子供の主体性や自主性をこれまで以上に重んじるように指示。しかも、子どもの前では「笑顔」と「あいさつ」と「モチベーション」を高めることもお願いした。これらの戦術により、児童会長を中心に高学年の児童たちが、「Happinessな学校」というミッションに向かって、能動的に動く姿が色々な場面で見られるようになってきている。

五 東京ディズニーランドへの思いが再燃  
五十歳過ぎでの「ディズニー」再デビューは、妻との二人旅である。年齢を感じつつ、ランド内の人混みの多さに辟易しながら、颯爽に「ファストパス」取りに走る自分がいる。ハアハア息をつきながらも、「Happiness」な自分がいる。二人の会話もはずむ。  
ちなみに、(株)オリエンタルランドでは、

五十歳代の夫婦のリピーターも誘客の戦略の一つのようである。



東京ディズニーランドホテル前で

六 義母はディズニーのギネスに

一昨年、秋と冬の二回、八十二歳の義母も連れてディズニーランドに出かけた。

「私はジェットコースターみたいな嫌いだし、乗らないからね。」と言いつつ張るのを励ましつつ、「ビックサンダーマウンテン」に三人で乗り込むことになった。乗車後、義母に感想を聞くと、

「怖いよ。ずっと前のバーを握り、目をつむっていたよ。」と……。係のキャストに訊ねると、「ビックサンダーマウンテンに八十二歳で乗ったのは、ディズニーではギネスものです。」と言われ褒められたが、義母はうかぬ顔。帰宅後、一週間はこの搭乗の影響で、「肩が痛い。肩が張る。」と言い続けていた……。最後に、「リフレッシュ」になるか、かえって「ストレス」になるのか分からないが、ディズニーのリピーターを続けていこうと考えている。これからは義母も連れて……。



タワーオブテラー 3人で